

社会保険労務士からの三方一両得だより

令和6年10月20日 第181号

木材劣化で話題の馬頭広重美術館を再訪

建築家の隈研吾さんが設計した馬頭広重美術館の装飾用の木材が想定以上に劣化して、大規模改修をすることになりました。建築から25年目を迎える同館の屋根装飾の腐食が進み、そもそも材料選定などの設計がおかしいのではないかとネットで炎上気味となっています。

以前同館の展覧会について事務所だよりの記事にしたことがあり、当時とどれだけ変化しているか確認のため、久しぶりに行ってみました。



確かに断面が欠けています。

確かに屋根などはくすんでいて、田舎に放置された小屋のような雰囲気がありました。しかし良く晴れた日だったためか、そんなにわびしい感じはしませんでした。広重美術館ですから周囲の風景と調和させて、江戸の雰囲気を出すための演出と解釈することも可能です。欠損部分だけ補修すれば、全く問題ないと思いました。

前回の事務所だよりは2014年の7月号、ほぼ10年前の記事です。読み返してみますと、「周辺の街並みともうまくマッチしていて、建築家の独りよがりでない感じもいいですね。」と称賛しています。無理やり木材を使用するので劣化で大変だと最近批判されがちな隈さんですが、近代的なものを求めるのなら、依頼主も違う建築家に頼めよと思うのでした。



屋根が掛かっている所は綺麗なまま。

我が家の畑

涼しくなったらまた実をつけるかもと期待していたトマトですが、そのまま枯れてしまいました。

ナス、ゴーヤも終了。気温の影響もあるでしょうが、野菜の寿命的なことのような気がしてきました。所詮プロ農家で無いので、今後は弱ってきた作物はほとんど片付けて、土作りをして次の作物を植えようと思いましたが。

さつまいもの出来は今一つでした。

今は白菜、ブロッコリー、キャベツ、秋とうもろこしが成長中。タマネギの苗を育苗中です。



今年植えたミョウガが採れました。

転職理由の真相と企業の対応策

仕事を共にしてきた従業員が退職するのは悲しいものです。もちろん当事務所でも退職は発生しています。仕事を教えたコストも無駄になりますし、何かこちらの接し方に問題があったのだろうか、精神的にくるものもあります。

退職を伝えられた時にはその理由を聞きませんが、どこまで本当のことを言ってくれるかは、その従業員の性格や退職理由によって随分と開きがあると思われま。第3者にであれば本当の理由を言いやすいと思いますので、厚生労働省の調査結果を紹介しします。



◆「給与の低さ」が若年層の転職理由トップ

厚生労働省の「若年者雇用実態調査」(令和5年)によると、若年労働者(満15~34歳の労働者)の前職の離職理由として最も多かったのは「給与の低さ」で59.9%でした。特に20~24歳の年齢層では男性64.6%、女性60.3%と高く、若年層の転職動機における給与の重要性が浮き彫りになっています。

◆「やりがい」と「スキルアップ」も重要な転職要因

一方で、「仕事の内容が自分に合わない」(41.9%)や「自分の技能や能力を活かしたい」「責任のある仕事を任せたい」(33.8%)といったキャリアアップ・スキルアップでの理由も上位にきています。これは、若年労働者が単に給与だけでなく、仕事の質や自己成長の機会も重視していることを示しています。

企業としては、給与水準の適正化だけでなく、従業員のキャリア開発やスキルアップの機会を提供することが、人材確保と定着率向上につながると言えるでしょう。また、入社時のミスマッチを防ぐために、採用プロセスでの職務内容の明確な説明や、入社後のフォローアップ体制の強化も重要です。

また、仕事量を増やせば「ブラックだ」と言われ、少なすぎたり簡単すぎれば「やりがいが感じられない」と言われることもあります。じゃあいったいどうすればいいのだという感じですが、同じ仕事を任せても早く終わる人もいれば時間がかかる人もいるように、物事の見え方や仕事の力量は人それぞれです。コミュニケーションをしっかりとって、従業員の求めていることやこちらが求めていることを共有するしかないのかも知れません。